

理解度テスト 解答

（QCサークル誌 No.753号連載講座参照）

施策実行型QCストーリーについて、以下の文章で、正しいものには○を間違っているものには×をつけて下さい。

- | | | |
|------------|---|--------------------------|
| Q1 | 「対策のねらい所」が設定できない時には、問題解決型で改善する。 | <input type="radio"/> |
| Q2 | 施策実行型では、悪さを引き起こしている原因を追究する「要因解析」がないので、改善とは言えない 既知の対策を積み重ねていく改善活動である。 | <input type="checkbox"/> |
| Q3 | テーマ選定の段階で、打つべき対策の方向性や具体的な対策案がわかっている場合に有効なのが施策実行型である。 現状把握から導きだすもの。 | <input type="checkbox"/> |
| Q4 | 現状の把握をしっかり実施した結果、「ここに手を打てば大丈夫」という対策の方向性が見えてきた時に有効なのが施策実行型である。 | <input type="radio"/> |
| Q5 | 現状把握では、不具合現象を構成している、Q・C・Dなどの結果系データのみを分析すれば良い。
4Mなどの要因系データにも着目して分析し、対策のねらい所を導き出します。 | <input type="checkbox"/> |
| Q6 | 施策実行型で改善した結果、期待通りの効果が得られなかった場合には、新たな「対策のねらい所」を設定して改善を進めるべきである。
問題解決型の手順に乗り換えて、原因を追究する必要がある。 | <input type="checkbox"/> |
| Q7 | 対策の検討と実施において、「対策のねらい所」に対してそれぞれの対策の有効性を確認しておくことは重要である。 | <input type="radio"/> |
| Q8 | 標準化と管理の定着の、三要素は、次の三つである、「標準化」・「歯止め」・「管理の定着」
「歯止め」では無く「周知」です。 | <input type="checkbox"/> |
| Q9 | 現状の把握調査で分かったことに対して、「対策のねらい所」として、表などに整理すると良い。 | <input type="radio"/> |
| Q10 | 打つべきターゲットの原因が明確の場合は、対策のねらい所から、改善を進めることが重要である。 | <input type="radio"/> |